

## 第6回

# 「未来を強くする 子育てプロジェクト」のご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、  
「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の  
2つの公募事業を柱として、  
すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。



### 子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。地域の地道な活動にも着目し、ロールモデルとなりうる特徴的な子育て支援活動を表彰しています。価値のある活動の他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育ての不安を払拭します。



### 女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

#### 目次

- 02 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介
- 03 ごあいさつ
- 04 講評
- 06 子育て支援活動の表彰
- 23 女性研究者への支援
- 30 第5回受賞者のご紹介

## 佐藤 義雄

住友生命保険相互会社  
代表取締役社長



住友生命では、2007年からよりよい子育て環境の整備にむけた「未来を強くする子育てプロジェクト」に取り組んでおります。この一環として、「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を実施しており、これまで過去5回の表彰を通じて、37組の子育て支援活動と50名の女性研究者への支援を行ってまいりました。

「子育て支援活動の表彰」では、子どもたちに対してのみならず、これを育む親や地域への深い配慮と創意工夫の中で生まれた素晴らしい取組みの数々に、毎回新鮮な感動を覚えます。同時に、時にはさまざまな事情を抱えた方々の抛りどころとなることで、「ともに助け合いながら社会全体で子どもたちの成長を見守っていく」という強い意志と使命感を持って地道な活動を続けてこられた皆様に心から尊敬の念を覚えております。

また、「女性研究者への支援」においては、それぞれの研究者の皆様が取り扱われている研究テーマの持つ

意義と、これを助成させていただくことの重要性を身にしみて感じております。研究者を取り巻く環境が厳しさを増す中で、研究と育児をしっかりと両立されている皆様の熱意に胸をうたれる思いがします。

そんな私どもにとって、皆様からいただく言葉が何よりも励みになります。「受賞をきっかけに、参加者もボランティアスタッフも増え、活動の幅が広がりました」「表彰された私の姿をみて、子どもが私も応援するからね！と積極的にお手伝いをしてくれるようになりました」といった喜びの声を頂戴するたびに、このプロジェクトの価値をあらためて実感し、皆様のご活動に微力ながら貢献できることを心からうれしく思う次第です。受賞者の皆様には、これを一つのきっかけに益々のご活躍を心より期待申し上げております。

住友生命では、これからも子どもたちの笑顔を守り、その未来を強くするための活動を積極的に行ってまいりたいと考えております。以上

### 募集結果

第6回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2012年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には173組、「女性研究者への支援」には119名のご応募をいただきました。選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

子育て支援活動  
の表彰

応募数 **173** 組

- 文部科学大臣賞／未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞／未来大賞の1組に授与
- 未来大賞／2組
- 未来賞／10組

女性研究者への  
支援

応募数 **119** 名

- スミセイ女性研究者支援／10名

# 講評

「未来を強くする子育てプロジェクト」選考委員

選考委員長



## 汐見 稔幸

白梅学園大学学長、東京大学名誉教授

次の社会を切り開くであろう活動や研究に対して、社会全体で応援していくのは当然のことですが、日本では子育て支援などの活動に対する支援は十分ではなく、また、研究者に対しても、先進的な欧米のように企業や個人から直接支援を行うシステムが確立されているわけではありません。このように日本は恵まれているとは言いがたい状況ではありますが、使命を持って地域で子育て支援活動に取り組んでいる方々や、育児と研究の両立に頑張っている女性研究者が日本中にいらっしゃることを、応募の中から感じることができました。本プロジェクトの支援によって、一つひとつの地道な活動や研究が世の中に広がっていき、地域や社会全体が変わっていく気運が高まることを願っています。

選考委員



## 大日向 雅美

恵泉女学園大学大学院教授

応募書類を拝見し、今日的な課題に当事者としての立場から研究に取り組まれている女性研究者が多くいることに心強く感じました。成果がすぐには評価されにくい人文社会科学系の研究に情熱を持って取り組む皆さんを、同じ女性研究者としてうれしく思います。これまで大変な状況の中で、子育てと研究を続けられてきたことと思います。受賞された方々は、これを糧にして頑張ってください。研究を続けていくためには、ご自身の熱意に加え、ご家族や周囲の方々の支援を得る努力が欠かせないと思います。このプロジェクトを通して、育児と研究を両立させている女性研究者への社会的理解が進むことを望みます。



#### 選考委員



## 奥山 千鶴子

特定非営利活動法人びーのびーの理事長

今回、「子育て支援活動の表彰」には過去最多の応募をいただき、全国の方々からの期待の大きさと、子育てへの支援の必要性を改めて感じました。応募書類を拝見し、プロジェクト開始当時と比べて、子育て支援団体の「子育て支援」の捉え方が広がっているように思います。妊娠期と出産直後の母親の交流や、シングルマザーと高齢者とのマッチングといった活動は、それが顕著に表れている事例ではないでしょうか。また、中越地震の仮設住宅を再利用して子育て支援に活用した事例など、東日本大震災復興への示唆が得られるものもありました。これ以外にも多くの素晴らしい活動があり、地域で地道な活動を続けている方々に、改めて敬意を表します。

#### 選考委員



## 米田 佐知子

認定NPO法人神奈川子ども未来ファンド事務局

多くの応募書類を拝見し、子育てをとりまく状況の厳しさを改めて感じました。また、支援内容は多岐にわたっており、ニーズに応じた多様な子育て支援が求められています。このような、子育て支援の多様なテーマに対し、商店街やお寺など、地域でコミュニティの核となりうる施設が中心となって、子育て支援に取り組み始めている活動が見られたことは喜ばしく、日本全国に広がる可能性のあるロールモデルとして期待しています。どの活動も、参加者の抱える課題を真剣に考えながらも、楽しんで活動されている様子が伝わってきました。今回の受賞により、ますます地域での子育て応援団が増えていくことを期待しています。

#### 選考委員



## 橋本 雅博

住友生命保険相互会社 代表取締役専務執行役員

選考をさせていただき、まず驚いたのが応募活動の多様性でした。「子育て支援活動」のアプローチの仕方にこんなにたくさんの方法があるのかと驚きました。それぞれの団体が活動されている地域の特色、問題等にあわせて工夫を凝らした支援を実践されていました。また、ひとつの団体の活動の中でも、その時々の利用者のニーズにあわせて柔軟に支援方法を変化させていることに感心いたしました。女性研究者の皆様の応募書類からは、社会的な支援がまだ十分でない状況下で、様々なテーマに向き合い頑張っていられる姿がにじみでており、社会的な支援の輪を広げていく必要性を痛感いたしました。当社の支援が皆様の一助になれば幸いです。



# 「子育て支援活動の表彰」 受賞団体のご紹介



文部科学大臣賞・未来大賞

## 石博の里コミュニティ

小学校を拠点に、地域住民が学校と一体となって行うさまざまな子育て支援活動

P08



厚生労働大臣賞・未来大賞

## 特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク

ひとり親家庭の子どもと地域の高齢者とのマッチングを図る里爺・里婆事業を展開

P10



未来賞

## 岩村田本町商店街振興組合

空き店舗を活用した学習塾や託児施設など、地域の商店街組合ならではの取組み

P12



未来賞

## 特定非営利活動法人 ウイズアイ

子育て連続講座やサークル交流活動支援&緊急・定期一時保育事業

P13



未来賞

## 夢 遊空楽彩 Crazy Pumpkin

絵画指導を通じて、家庭とも学校とも違った子育てや交流の場の提供

P14



未来賞

## 子育てオーダーメイド・サポートこもも

妊産婦家庭へのヘルパー派遣など産前産後支援と派遣ヘルパーの育成

P15



未来賞

P16

## 一般社団法人 ジェスペール

東日本大震災の被災地・避難先での妊産婦支援と、助産師のネットワークの形成



未来賞

P17

## 特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会

里山での自然遊びを通じて、子どもが環境について学ぶ環境教育プログラムを実施



未来賞

P18

## 特定非営利活動法人 せき・まちづくりNPOふうめらん

お寺を市民や子どもの憩いの場として復活させ、イベントを通してまちづくりに貢献



未来賞

P19

## 特定非営利活動法人 多世代交流館になニーナ

中越地震の仮設住宅を再利用し、子育て世代からシニア世代まで多世代が交流する居場所づくり活動



未来賞

P20

## 特定非営利活動法人 つみっ庫くらぶ

間伐材を利用した大型木製ブロックを使って、わんぱく遊び教室を各地で開催



未来賞

P21

## 特定非営利活動法人 でんでん子ども応援隊

地域でつくる“すぐやる課”、“子育てのコンビニ”を目指しています

文部科学大臣賞・未来大賞

# 石樽の里コミュニティ

三重県いなべ市 代表者：森 清光



“子どもは地域の宝”  
小学校を拠点にして、  
「地域全体で子どもたちを  
見守り育てる」



## 参加者の声

- 子どもと学校と地域の方とのつながりが素晴らしいです。日本一の学校で日本一の地域力を感じました。皆さんの充実感あふれる笑顔がそれを物語っています。
- 見守り隊のおじいさんやおばあさんと一緒に歩きながら、昔話や道に咲く草花の名前を教えてもらいます。知らないことをたくさん聞けて楽しいです。

## 受賞の言葉

石樽の里コミュニティのルーツである校舎建替計画を検討した建設委員会の発足から10年。この節目の年に文部科学大臣賞を受賞できたことは、この上ない喜びです。子どもの健やかな育ちのために、学校・家庭・地域が力を合わせ取り組んできたことへの最高のご褒美として、また今後の活動への大きな励みとして、この喜びを地域全体で分かち合いたいと思います。ありがとうございました。

## 「地域全体で子どもたちを見守り育てる」という発想

私たちの活動は、老朽化した校舎を見かねた地域の有志の発案による、石榑小学校の建替計画から出発しました。学校関係者、行政、そして地域住民が集まって議論を重ねる中で、単なる校舎建替の話に止まらない、より大きな目的意識が芽生え、メンバー間で共有されました。それは、家庭だけでも学校だけでなく、地域全体で子どもたちを見守り育てるという発想です。

「子どもたちは地域の宝」。だからこそ、みんなで協力して子育てをするという考え方は、私たちの活動理念にもなっていて、地域内外の学校、企業、団体などと広く連携した子育て支援・交流活動を日々行っています。

## 学校を開放することで得られたもの

活動拠点である石榑小学校には、広く一般に開放された「地域ゾーン」というフロアがあります。ここでは、地域住民が先生となって子どもたちに生け花やお菓子作りなどを教える、さまざまな体験教室が開かれています。

最近では、子どもたちの安全を考えて、校門を閉ざしたり、監視カメラを設置する学校が増えているようですが、私たちの発想は逆で、締め出すのではなく開放することによって、地域の目で子どもたちを見守っています。多くの人たちに見守られ、気にかけてもらうことで、子どもたちは、自分が大事にされているということを感じてくれていると思います。

もちろん、学校を開放することは、運営面では大変なことも少なくありません。しかし、この地域には「石心（いしころ）」という、学校を支えるためならどんな苦労もいとわない伝統的な気風が

あって、その姿勢や精神は、私たちの活動にもしっかりと受け継がれています。

## 子どもも、大人も楽しみにしています

数ある活動の中で、子どもたちがもっとも楽しみにしているのが、年に1度開催される「石榑の里まつり」です。学校全面協力のもと行われるこのお祭りは、まさに地域の一大イベントで、当日は、スタッフはもとより、学校の先生や地域住民も一致協力して運営や進行を行います。

「石榑の里まつり」を楽しみにしているのは、子どもたちばかりでなく、運営に携わる大人たちもまた同様で、準備の段階からみんな大はりきりです。子どもたちと一緒に楽しく過ごすことが、こうした活動を長く続けていく秘訣なのだと思います。

### 活動内容

地域のネットワークを生かし、大学や企業などとも連携して、子どもの居場所づくり、学習支援、体験イベント、見守りなどを行っています

名称：石榑の里コミュニティ

活動開始：2005年4月

スタッフ：155名

連絡先：〒511-0266

三重県いなべ市大安町石榑南611

石榑小学校内

TEL.0594-78-0002

厚生労働大臣賞・未来大賞

# 特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク

鹿児島県鹿児島市 代表者：山口 美潮



子ども、高齢者  
みんなが幸せになれる  
「里爺・里婆事業」を推進中



## 参加者の声

- うちの実家も遠く一人っ子なので、このイベントに参加することで歳の違う子どもたちと兄妹のように仲良くなり、里爺・里婆と遊ぶのが楽しみになっています。
- 子育てについて、仲良しの里爺・里婆に子育ての悩みを相談したり、日頃メールのやりとりをしたりしてアドバイスをもらっています。

## 受賞の言葉

私たちの活動は孤立しがちなひとり親家庭と高齢者をマッチングし、一昔前までは当たり前だったみんなで見守る子育てを目標にしてきました。今回の受賞を、スタッフをはじめ里爺・里婆たちも更に生きがいを感じ感謝しております。子どもと高齢者は国の宝です。高齢者の知識や経験を次の世代を担う子どもたちに受け継ぎ明るい未来を築けるよう活動を続けていきたいと思えます。

## 当事者・経験者だからこそのわかること

鹿児島県では今、ひとり親の家庭が増えていきます。祖父母や親戚など頼れる人が近くにいないケースも多く、ひとり親家庭の孤立化が大きな問題になっています。実は、私自身も離婚経験があり、シングルマザーの不安や苦労を身をもって体験するとともに、だからこそ、ひとり親家庭に対する支援の必要性を強く感じてきました。

私たちの活動の柱である、ひとり親家庭の支援事業に携わるスタッフは、ボランティアで参加してくれている子育て経験者やシングルマザーたち。同じ悩みを共有する者として親身になって、さまざまな問題の解決に努めています。公共のサービスだけではどうしても行き届かない部分を、当事者の目線で補っていくところに、私たちの活動の意義はあると思っています。

## ひとり親家庭の子どもたちと高齢者を結びつける

ひとり親家庭の支援策として特に力を入れているのが、「イクジイ」ならぬ、「里爺・里婆事業」です。これは、寂しく過ごすことの多いひとり親家庭の子どもたちと、孫と離れて暮らす元気な高齢者をマッチングさせる試みで、双方にとってメリットのある活動としてご好評いただいています。

子どもたちは里爺・里婆から昔の遊びなどを教わり、里爺・里婆は子どもたちとのふれあいを通じて生きがいを得ることができます。また、シングルマザーにとっても、すぐ近くに頼れる人がいるということで、心の支えになっているようです。なかには、食事会や誕生会、あるいは運動会や発表会といった学校行事なども一緒に楽しんでいる方たちもいて、本当の家族のような交流が育まれています。

## 「里爺・里婆事業」を広く全国へ

孤立しがちなひとり親家庭の問題、そして高齢者の生きがいや社会参加の問題は、ここ鹿児島だけでなく、広く全国に共通する問題だと思っています。その意味でも、子育て支援と高齢者支援の両方の側面を持った「里爺・里婆事業」に対するニーズは、他の地域にもあると考えています。今後は、私たちの活動を多くの人たちに知っていただけるよう、積極的に情報発信をしていきたいと思っています。それによって、悩みを抱えているシングルマザー、寂しい思いをしている子どもたち、そして引きこもりがちな高齢者たちに、元気に、前向きになってもらえればうれしいです。

### 活動内容

ひとり親家庭と高齢者を結びつける「里爺・里婆事業」を実施。子どもたちに家庭以外にも心のよりどころをつくっています

名称：特定非営利活動法人  
鹿児島ボランティアバンク  
活動開始：2006年5月  
スタッフ：8名  
連絡先：〒890-0051  
鹿児島県鹿児島市高麗町  
34番19号1F  
TEL.099-210-7967

未来賞

# 岩村田本町商店街振興組合

長野県佐久市 代表理事 阿部 眞一



地域で育てる子育て支援 商店街をあげて、昔ながらの「寺子屋の子育て」を実践しています

## 商店街が中心になって子育てをサポート

長野新幹線の開通によって、佐久平駅周辺も東京への通勤圏となりました。それに伴い、新たに住民が増える一方で、古くからの風習に馴染むことのできない家庭や、核家族化で子育てに悩む母親たちの姿も浮き彫りになってきました。そこで、商店街をあげて子育て支援をしようと、18歳未満の子どもを持つ世帯を対象にした会員制度「子育て村」をスタート。現在は、歴史や伝統を伝える「佐久っ子探検隊」やしめ縄作り、次の世代に残したい民話を伝える事業、親子の絆をテーマにした「ママ弁選手権」、子育てママのための「街カフェ」やお楽しみイベント「クリスマスツリー講座」など年間で約15もの子育てイベントを開催し、のべ1,500名以上の参加者でにぎわっています。

## 参加者の声から、新たな活動が生まれています

イベント終了後にはアンケートを必ず実施することで、地域の人たちの声やニーズを積極的に収集しています。学習指導だけでなく世代間交流なども行われる、商店街直営の学習塾「岩村田寺子屋塾」。子育てサロンと短時間託児所の両方の機能を併せ持った「子育てお助け村」。どちらも、参加者たちの声から生まれた活動です。

## 子育て支援の伝統が根付く町にしたい

スタッフは全員、商店街振興組合の理事であり、商店街のお店の店主でもあります。忙しい本業の合間を縫って、みんなでアイデアを出し合い、魅力的なイベントづくりに日々奮闘しています。イベントに参加した子どもたちにはぜひ、商店街を、そしてこの町を好きになってもらいたいと思っています。そうした子どもたちが将来大人になり、今度は次世代の子どもたちのために頑張る。そうした伝統が根付けば幸いです。

### 活動内容

子育て支援会員制度「子育て村」の運営や、商店街直営の「岩村田寺子屋塾」の運営等商店街をあげて子育て支援をしています

名称：岩村田本町商店街振興組合  
活動開始：2007年3月（「子育て村」発足）  
スタッフ：17名  
連絡先：〒385-0022 長野県佐久市岩村田758  
岩村田寺子屋塾 TEL.0267-54-8339

### 参加者の声

- 夫は仕事が忙しく、育児の相談できる人が身近にいないのが悩みでした。イベントに参加されたママともお友達になり、商店街の方々とも顔見知りになり、娘は商店街が大好きになりました。
- 「子育て村」のいろんなイベントで親も子もお友達ができ、「街カフェ」では、いろんな悩みを出し合い、「私だけじゃないんだ!」と心強くなりました。

### 受賞の言葉

このたびは、荣誉ある賞をいただき、ありがとうございました。これからの未来を担う子どもたちをどう育てるかは、今の時代に生きる大人たちの未来への責務です。この賞の受賞を励みに、さらに、「地域で育てる子育て支援」をさまざまな団体と連携しながら、今後も最重要課題として推進していきたいと思います。

未来賞

# 特定非営利活動法人 ウイズアイ

東京都清瀬市 代表者：川原 壽春



赤ちゃんを真ん中に、家族、地域、  
みんなをつなぐお手伝いをしています

## 不安いっばいの新米ママをサポート

新生児訪問指導員をしていたメンバーが、初めての子を出産し不安と緊張の中で孤立した育児をしているお母さんたちに多く出会いました。そうした新米ママたちが集い、お互いに子どもを見守り、学び合って、子育てができる場を作りたいと思ったのが、この活動を始めたきっかけです。現在は活動の幅も広がり、ひろば事業や預かり事業など、さまざまな子育て・親支援事業を展開中。悩みを抱えたお母さんたちが気軽に頼れる「第2の実家」のような場所を目指しています。

## 参加者同士の交流も盛んです

参加者同士の結びつきが強い点も、私たちの活動の特徴のひとつです。たとえば、連続講座への参加を通じて交流を深めたお母さんたちが、講座終了後も活動を続けたいと、自主的にサークルを立ち上げ、これまでに150以上のサークルが誕生しています。当時赤ちゃんだった、第1期生のお子さんは現在、中学3年生。同じ悩みを抱えているママたちをつなぐ自助グループ育成にも力を入れており、「多胎児の会」の先輩ママは、現役ママをサポートしています。ともに育った子どもたちを地域の中でわが子のように見守っています。

## お父さんたちにも 育児参加・地域交流の機会を

お母さんたちの子育てのストレスや不安を解消する上では、父親の役割は重要です。そこで私たちは、父親向けの育児講座・料理教室も定期的で開催しています。ベビーマッサージ・夫婦のコミュニケーション講座などのプログラムで、親を支援できるよう工夫しています。こうした参加型講座を通じて、父親の育児参加・地域参加の機会を作っています。

### 活動内容

未就園児の親を対象にグループワークを展開し、仲間づくりを支援。24時間緊急一時保育にも対応し、第2の実家としての役割を目指しています

名称：特定非営利活動法人 ウイズアイ

活動開始：1995年4月

スタッフ：50名

連絡先：〒204-0024

東京都清瀬市梅園2-2-29 ラベ梅園1階

TEL.042-452-9765

### 参加者の声

●頼れる実家も友達もない中の不安な子育て、「新米ママの会」で出会ったママ友たち、今では何でも話せる親友です。この出会いがあったから、ここまで頑張れました！ ●ここでは親も子ども大切にしてくれるので、「明日も頑張ろう！」と元気になるようになります。肩肘張らずに素直に育児が楽しいと思えるようになったのは、ウイズアイのおかげです。

### 受賞の言葉

子どもたちの笑顔はママたちが笑っていること、そのためには心身共に余裕が必要。ママたちの笑顔にはパパたちの理解や協力が不可欠。家族みんなが笑顔になれる地域・社会、それが私たちの活動の目標です。当事者の声に寄り添いながら事業を展開し、自分たちで必要な支援を生み出してきました。今までの活動を認めていただき感謝でいっぱいです。

未来賞

# 夢 遊空楽彩 Crazy Pumpkin

神奈川県秦野市 代表者：久保寺 こずえ



## 障がいのある子もない子も、 絵筆を握ってのびのびと自己表現しています

### 症状や個性の違いに合わせた絵画指導

絵画指導を通じた子育て支援を、約30年にわたって続けてきました。小学校の特別支援学級のサポートをしていた関係で、私たちの絵画教室には、障がいを持った子どもたちも多く通っています。ひとりとして同じ個性を持った子どもはいませんので、個々のペースに合わせた指導ができるよう、当教室では個別指導の体制を整えています。スタッフがすぐ隣で見守るなか、障がいのある子もない子も自由に、そして楽しく絵を描いています。

### 展覧会を通じて、 大きく成長する子どもたち

障がいについて知ってもらう機会になればと、定期的に展覧会も開催しています。一生懸命に描いた絵を多くの人に観てもらうことで、子どもたちは達成感を得るとともに、自分に自信が持てるようになります。なかには、めきめきと力をつけて、美術展で賞を受賞した子や、作品が雑誌の表紙を飾った子などもあります。開催前から問い合わせも多く、毎回、たくさんの方にお越しいただいています。

### 絵を描くだけではありません

生徒の多くが、中学生や高校生になっても変わ

らず、私たちの絵画教室に通い続けてくれています。それは、アトリエが子どもたちにとって、単に絵を描くための場所ではなく、交流や息抜き、そして親には言えない悩み事を相談できる場所にもなっているからだと思います。家庭とも、学校ともまた違った子育てを、絵画指導を通じて、今後も続けていきたいと考えています。

### 活動内容

障がいのある子もない子も  
楽しく過ごせるように絵画教室  
を開催。幼稚園、中学校、  
短期大学にて絵本作りや講  
演会活動も行っています

名 称：夢 遊空楽彩 Crazy Pumpkin

活動開始：1984年5月

スタッフ：5名

連絡先：〒259-1306

神奈川県秦野市戸川717番地の5

TEL.0463-75-4056

### 参加者の声

- 自閉症の息子が、油絵セットを持って楽しそうに絵画教室に通っています。幸せなひとときです。
- 息子が教室に通って早2年、休むなんて言うことがありません。本当に居心地の良い場所なのでしょう。大好きなことに集中して取り組む彼の背中には成長の証しがしっかりと現れ、いつも家族の元氣のもととなっています。

### 受賞の言葉

このような賞をいただき、スタッフ共々大変嬉しく思っております。「うちの子に絵を教えてください」の言葉がきっかけで絵画教室が始まり、生徒や父兄、学校や福祉関係者、私を支援してくれる多くの人に出会い、学び、助けられて今日があります。これからも子どもたちを支え、愛し、育成の場所としてあり続けられるよう努力していきます。

未来賞

## 子育てオーダーメイド・サポートこもも

青森県青森市 代表者：橋本 歩

妊産婦さんを対象に、  
「オーダーメイド」の子育て支援をしています

## 安心して産前産後を過ごしてもらいたい

行政の子育て支援機関や、子どもたちの遊び場が充実している青森市は、比較的恵まれた育児環境にあると思います。しかし一方で、そうした存在を知らずに、ひとりで悩み、心身を疲弊させているお母さんたちも少なくありません。私たちは、産前産後のたいへんな時期を、大きな負担を抱えながら過ごす妊産婦さんのために、必要な情報や人手、ネットワークを提供する活動をしています。

## 各家庭の状況に合わせたサポートを実施

私たちの主要な活動のひとつに、妊産婦家庭へのヘルパー派遣があります。初回は必ず、コーディネーターによる聞き取りを実施しています。これは、利用希望者の現状や困りごとをきちんと把握し、解決方法を一緒になって考え、その上で各家庭の状況に合った適切なサポートを行うためです。ちなみに、派遣するヘルパーは、独自の研修を修了した育児経験者たち。サポートの担い手を育て増やすことも、私たちの大切な仕事です。

## 地域の先輩お母さんが講師を務めます

「マタニティ交流会」では、講師を務める地域の先輩お母さんの話に、時に楽しく、時に真剣な表

情で耳を傾ける妊婦さんたちの姿が印象的です。出産の喜びや育児のコツに関する、身近な先輩の体験談は、初めての出産を前に不安を抱えた妊婦さんたちにとって、とても心強く感じられるようです。今後は、こうした交流活動にも力を注いでいきたいと考えています。

## 活動内容

妊娠期から産後の相談・  
情報提供や、妊産婦家庭への  
ヘルパー派遣、ヘルパー養成  
研修、仲間作りの交流会  
などを行っています

名称：子育てオーダーメイド・サポートこもも  
活動開始：2007年12月  
スタッフ：15名  
連絡先：〒030-0841  
青森県青森市奥野1丁目7-5 D-7  
TEL.017-743-9892

## 参加者の声

●今年3人目を出産後にサポートを受けました。産前産後は体も心も不安定だったので、親のサポートが受けられない大変な時期を支えてもらって本当に良かったです。●利用者として、受賞をとてうれしく思っています。産前産後のサポートをしてくれる人たちがいることが広まり、少しでも楽に産褥期を過ごせる人が増えたらと願っています。

## 受賞の言葉

私たちの活動は地味で目につきにくいものですが、これからも産前産後サポートやマタニティ交流会などを通して『産後はゆっくり休む』ことの大切さを伝え、産前産後は誰かに支えてもらうことが必要なんだと知ってほしいです。そして1人きりで頑張らず、辛いと言える仲間がいる中で育児をしていけるようなお手伝いが出来ればと思っています。

未来賞

# 一般社団法人 ジェスペール

東京都中野区 代表者：宗 祥子



## 助産師のネットワークを通じて、 被災地のお母さんと赤ちゃんをサポートしています

### 被災された妊産婦さんたちのために

震災からの復興はまだ道半ば。なかでも、被災地の妊産婦に対する支援は十分とは言えず、出産や育児を取り巻く環境は今なお厳しい状況にあります。被災地で新たな命が生まれ、母子ともに健やかに暮らせるようにならないと、真の復興とは言えません。そこで私たちは、「東北こそだてプロジェクト」と銘打って、現地の助産師たちと協力しながら、被災地または各地の避難先で、生活している妊産婦さんを支援しています。

### 新たなコミュニティが生まれています

母子の心身のケアならびに妊産婦同士の親睦を深めることを目的としたサロン活動を各地で実施しています。震災によって地域のコミュニティが崩壊し、孤独な育児環境のもとで産後うつになるお母さんたちも少なくありません。そのような中で私たちのサロンは、困ったことがあれば気軽に頼ることのできる「駆け込み寺」になるとともに、お母さんたちの新たな交流の場にもなっています。

### 人と人をつないで、より力強い支援を展開

活動開始当初は何のネットワークも持たなかった私たちですが、今では、被災地各県の助産師た

ちと横のつながりをもって、地域の実情に即した妊産婦支援が行えるようになってきました。ひとりの力ではできないことも、多くの人力が集まることで、できるようになります。今後も、人と人をつなぐことで、被災された妊産婦さんの支援を力強く、そして継続的に行っていききたいと思っています。

#### 活動内容

助産師がサロン活動や仮設住宅の巡回訪問を行っています。育児や母乳相談・ベビーマッサージを中心に、母親同士の親睦の場も提供しています

名称：一般社団法人 ジェスペール  
活動開始：2012年3月  
(現地支援開始は2011年9月)  
スタッフ：7名  
連絡先：〒165-0024  
東京都中野区松が丘1-10-13  
TEL.090-4611-0904

#### 参加者の声

●妊娠中、何度も仮設住宅まで訪問いただきました。実母も義母も亡くなり非常に心細い中、スタッフの方が掛けて下さる一言一言にとっても励まされました。●同じくらいの赤ちゃんを持つママとお友達になる機会が持てる上に、居心地が良くホッとできる場所が出来てうれしいです。助産師さんのアドバイスも励みになっています。

#### 受賞の言葉

この度の受賞に対し心から感謝申し上げます。被災地では、家や家族を失い、仮設住宅や人里離れた地域で孤独に子育てを続けている方が数多くいます。そのような母子を地域の助産師が支えています。自治体は子育て支援まで手が廻らない状況です。この受賞をきっかけに、多くの方に母子支援の必要性をご理解いただけることを願っております。

未来賞

# 特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会

静岡県静岡市 代表者：理事長 大畑 実



## 里山の自然の中で子どもに寄り添い育ち合う。乳幼児と保護者を対象とした日常的な環境教育プログラム

### “自然あそび”を通じた環境教育

私たちは、子どもたちが環境について学ぶ機会をさまざまな形で提供しています。「里山のかやねずみ」も、そうした環境教育プログラムのひとつです。里山に身を置くことで、五感が研ぎ澄まされ、それぞれの子どものペースで遊びが始まります。子どもたちは多種多様な里山の植物や生き物にふれながら、自ら「感じ、考え、行動する」力身につけていきます。自ら遊びを見つけ出しやってみようとする子どもの心に寄り添い、見守る姿勢がお母さんたちの間に広がっています。

### 里山は、子どもたちにとって最高の遊び場

「里山のかやねずみ」の参加対象者は、0～3歳までの未就園児。心と体の基礎ができる乳幼児期に、感性を豊かに働かせることが子どもの育ちを支えることとなります。初めて参加する子は、慣れない環境にどこかおっかなびっくり。しかし何回か参加するうちに、自ら遊びを創り出すようになります。子どもたちにとって里山は学びの場であるとともに、街中では体験することのできない遊びの場にもなっています。一方、お母さんたちにとっては、ゆったりとした時間の中で我が子にじっくり向き合って過ごし、仲間と子育てに関する情

報を交換する場にもなっています。週2回以上参加する親子もいて、自然の中で過ごすことが特別ではなく日常となっている様子が見られます。

### 自然とふれあえる機会を、もっと多くの子どもたちに

今後は、身近な公園でも環境教育プログラムを実施し、子どもたちが自然とふれあえる機会を増やしていきたいと考えています。

#### 活動内容

四季折々の里山の自然の中で、子どものありのままの姿やその遊びを尊重し、親子のつながりを深める環境教育を実施しています

名称：特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会  
活動開始：1989年  
スタッフ：30名  
連絡先：〒422-8002  
静岡県静岡市駿河区谷田1170-2  
TEL.054-263-2866

#### 参加者の声

- 子どもの心に寄り添い「やりたい！」にとことんつきあってくれます。そして子ども同士の世界を尊重してくれる姿勢が、心と体の成長を促してくれます。五感を心地よく刺激できる環境は貴重です。親として、自分の子どもだけではなく、参加している子どもたちの成長も本当に楽しい！と感じることができます。

#### 受賞の言葉

子育て支援の形や内容は様々ですが、「里山のかやねずみ」では子どもと親御さんが同じ時間に同じ場所で親子のところが通い合う場を提供しています。様々な生命がつながりあっている自然の中で遊ぶことが、子どもと大人、参加する親同士、子ども同士をつなぎ、お互いに育ち合う環境を作ってくれたいと考えています。

# 特定非営利活動法人 せき・まちづくりNPOぶうめらん

岐阜県関市 代表者：北村 隆幸



## お寺で、子どもたちが元気よく遊び、大きく成長していく町を目指して

### 2つの想いが1つになって誕生

お寺を拠点にした、多世代交流・子育て支援活動（通称「てらっこ」）を行っています。てらっこは、「市民に長く愛されてきたお寺を、憩いの場として復活させたい」というお寺の想いと、「子育てを支える場をつくりたい」という私たちの想いが1つになって誕生しました。お寺はお年寄りも集まりやすく、ばあば、ママ、そして子どもたちの3世代による交流が、ここでは育まれています。

### お寺ならではのイベントが好評です

絵本、工作、わらべうたなど、子どもたち向けのさまざまなイベントを実施していますが、特に人気があるものが「住職とのティータイム」です。これは、住職の法話を、お茶とお菓子をいただきながら聞くというイベントで、毎回、会場は参加者でいっぱいになります。もちろん、子どもたちも住職の楽しい話に夢中。こうしたイベントへの参加を通じて、子どもたちは心の面でも、ひと回りもふた回りも大きく成長しています。

### 「てらっこ」を他の地域にも広げたい

昔は当たり前だった、お寺の境内で子どもたちが元気に遊ぶ姿や声が、この地域には戻りつつあ

ります。現在、市内の3つの地域で活動を展開していますが、こうした成果が評判を呼び、他の地域のお寺からも、てらっこ開催のオファーが来ています。まずは「てらっこを市内の各地域に1つずつ」を目標に、ゆくゆくは、お寺を拠点にした地域づくりの試みを全国に広げていきたいと考えています。

#### 活動内容

多世代憩いの広場でてらっこは、お寺でおばあさんや母親がスタッフとなり、子育て中のママが遊びにくることができる広場です

名称：特定非営利活動法人  
せき・まちづくりNPOぶうめらん  
活動開始：2007年6月  
スタッフ：常勤スタッフ2名、非常勤スタッフ31名  
ボランティアスタッフ53名  
連絡先：〒501-3253  
岐阜県関市栄町1-22-2F  
TEL.0575-46-8035

#### 参加者の声

- てらっこは、程よいスペースとお寺の境内での自由な遊びで子どもも親も安心してくつろげる場所です。毎回イベントもあり、ママ同士も気さくに話せる、小さい集まりならではのゆるさが気に入っています。
- 優しいスタッフの方と、我が子が好きな木のおもちゃに囲まれて、ゆっくり過ごせるのでありがたく利用させてもらっています。

#### 受賞の言葉

お寺の境内で、子どもとママが遊ぶ姿は地域の人の心を和ませてくれる光景です。子育て支援は地域で子育てしやすい雰囲気を作ることが大切で、まちづくりとの連動が必要不可欠です。今後も、お寺を生かし、地域で子育てを支えるまちづくりを進めていく所存です。この場をお借りし、関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

未来賞

# 特定非営利活動法人 多世代交流館になニーナ

新潟県長岡市 代表者：佐竹 直子



## 中越地震の仮設住宅を再利用し、多世代交流の場を提供しています

### 中越地震をきっかけに、私たちの活動はスタートしました

2004年の中越地震で被災した折に、災害時には子育て世代が孤立しがちであることを強く感じました。孤立を防ぐためには、日頃から人や地域とつながりを持つことが大切であると考え、そのための拠点を作るところから、私たちの活動は出発しました。現在使っている交流館の建物も、実は仮設住宅を再利用したものです。

東北地方で今なお苦勞されている子育て世代の方たちに、私たちの経験をお伝えすることで、少しでも復興のお役に立てれば幸いです。

### 継続的な交流の拠点になっています

多世代交流館になニーナの良いところは、地域の方たちが継続的に集い交流することで、より強い結びつきを築くことができる点にあります。それによって、子育てを終えた参加者が、今度は支援する側にまわるといった好循環も生まれています。多世代の方との交流によって、母親たちは多様な考え方や価値観、情報に接し、子育てだけではない自分の生き方、社会との関わりについて考え直すきっかけになっています。

### さまざまな世代の方が参加

子育てに関する悩みを分かち合う「子育てサロン」、手芸など好きな手仕事を持ち寄って楽しむ「手しごとカフェ」、体を動かして心も元気になる「健康お茶会」。いずれの活動においても、シニア世代の参加も促すことで、多世代の交流が着実に育まれています。今後は、行政や企業との連携も強化して、この多世代交流の試みを横へと広げていきたいと考えています。

#### 活動内容

中山間地域の高齢者を講師に迎えて、郷土料理を教わりながら交流する「山のお母さんの料理教室」等、多世代交流事業を多数実施しています

名称：特定非営利活動法人 多世代交流館になニーナ  
活動開始：2007年1月  
スタッフ：25名  
連絡先：〒940-2023 新潟県長岡市蓮潟4-2-25  
TEL.0258-28-8627

#### 参加者の声

- になニーナに出会う前は居場所がないと感じていました。子育て支援センターに行っても人間関係が広がらず、社会から孤立して取り残された気がしていました。ここでは、自分の居場所ができて、いろんな人と関わり、自分の生き方が変わりました。
- 世代間交流は難しい。今後はこのような擬似多世代家族体験が必要だと思う。

#### 受賞の言葉

受賞のご連絡をいただき本当にうれしかったです。たくさんのご支援くださる方々に支えられての活動ですので、受賞の喜びを感謝にかえて、皆で分かち合いたいです。人とのつながりが希薄な今の中、多世代交流の風を吹き込むことで、子どもの輝きや、母親たちの本来の力が引き出される社会になるよう願っています。

未来賞

# 特定非営利活動法人 つみっくらぶ

兵庫県小野市 代表者：西尾 裕之



## 大型の木製ブロックを使った 「工作体験」「環境教育」「防災支援」に取り組んでいます

### 自分たちの遊び場は、自分たちの手で

大型の木製ブロック「つみっく」を使った、子ども遊びのワークショップを開催しています。ブロックには決まった設計図はなく、何を組み立てるのも自由。そのため、ワークショップでは毎回、子どもたちの豊かな発想にあふれた作品が次々と誕生しています。その多くは「秘密基地」と名付けられ、完成後は、迷路遊びや陣取りゲームの場所へと様変わりします。自分たちの手で作り上げた遊び場に、子どもたちはいつも大興奮です。

### 発想力や社会性が学べる大型工作体験

ブロックを組み立てて、自分の背よりも大きな「秘密基地」を作るためには、共同作業が欠かせません。小学校低学年から高学年まで、参加者みんなで相談し工夫しながら作業を進めることで、子どもたちは発想力や社会性を自然と身につけていきます。また、間伐材から作られている「つみっく」を通じて、森林が多い日本の国土や環境保全の大切さについても併せて学んでいます。

### 災害時にも力を発揮します

「工作体験」「環境教育」とともに、私たちの活動の大きなテーマになっているのが「防災支援」

です。特別な工具を用いることなく、誰でも簡単に組み立て・作り直しができる「つみっく」は、災害時にも大活躍します。私たちが東北の避難所に届けた「つみっく」も、子どもたちの遊び場としてはもちろん、更衣室やFM局のブースなど、さまざまな用途で活用されています。

#### 活動内容

間伐材から作られた大型ブロックを使っての「秘密基地」作りや、基地でのキャンプ等  
わんぱく遊びを通して環境問題に対する意識を  
育てます

名称：特定非営利活動法人  
つみっくらぶ

活動開始：2009年4月

スタッフ：8名

連絡先：〒675-1367

兵庫県小野市敷地町1623-7

TEL.0794-63-0566

#### 参加者の声

- 息子を迎えに行くと、大きな「秘密基地」が完成しており、子どもたちが作ったと聞いて本当にびっくりしました。息子も誇らしげでした。
- 娘は、「秘密基地遊び」「森林学習ツアー」「お化け屋敷キャンプ」すべてに参加しました。女子の参加者も多く、女の子の方がわんぱくなのかもしれませんね。

#### 受賞の言葉

ありがとうございます。子どもたち向けの活動で毎回新しい発見があります。わんぱく遊びを勧めつつも、行動を規制することが必要な場面もあります。それでも成長過程で経験する「通過儀礼的遊び」として、木に親しみ環境を考える体験が必要と考えます。東北にも「秘密基地・お化け屋敷」を持って行きましたし、今後も活動を続けていきたいです。

未来賞

# 特定非営利活動法人 でんでん子ども応援隊

東京都北区 代表者：豊原 きよみ



未来ある子どもたちと、  
子育てに頑張るお母さんたちの「応援隊」です

## 小さな取り組みが大きく広がりつつあります

「ゆっくり、じっくり、しっかり」をモットーに、親子に寄り添い、励まし支えるための活動をしています。学校や塾に馴染めない子どもたちを自宅に受け入れて学習の面倒を見たり、地域のきずなを強くするために子育て情報紙を作成して無料で配布したり……。たとえ小さなことでも、できることからコツコツと地道に取り組んできた私たちの活動は、今では仲間も増えて、地域の人たちももとより近隣の学校や商店街などからも頼りにされるまでになりました。

## 自分も、他人も大切にできるように

私たちが行っている「学習サポート教室」は、学習するだけの塾とは違います。この教室では、発達障がいや不登校の子など色々な事情があっても一緒に学べるように工夫しています。学習しながら、自分を肯定し他者を尊重することも学んでいます。子どもたちには、多様な生き方を認め、他者を思いやることのできる大人になってもらいたいと願っています。

## 子どもだけでなく、お母さんたちも応援

乳幼児を抱えたお母さんたちをサポートする活

動も行っています。「でんでん保育室」は、働いていない方でも子どもを預けることのできるミニ保育です。「子連れOK講座」は、乳幼児を連れてお母さんを対象にしたゴスペル講座です。今後も、「子育てに困ってもあそこに行けば何とかなるよ」と言っていただけるような助け合える場を、地域の中につくり続けていきたいと思っています。

### 活動内容

乳幼児から思春期まで幅広い子どもたちを支援。  
利用者の声をとりいれながら  
“子育てのコンビニ”を目指しています

名称：特定非営利活動法人  
でんでん子ども応援隊  
活動開始：1997年9月個人で活動開始  
2008年2月NPO法人認証  
スタッフ：30名  
連絡先：〒114-0031  
東京都北区十条仲原1-27-3  
TEL.03-3905-2355

### 参加者の声

- 引越し準備や子育てに疲れていた時に「でんでん保育室」で預かっていただき、救われました。子どもはでんでんに通い始めてから表情が豊かになった気がします。
- 「学習サポート教室」で、息子が楽しそうに勉強に取り組み出したのを見て、子どもの個性を受け止めることがどんなに大切なことなのかを教えられました。

### 受賞の言葉

15年間の活動は、本当に多くの人々のつながりやその力によって支えられてきました。この受賞は、今までかかわって下さったすべての方々に頂いたものだと思います。真面目にひたすらに続けてきたことが認められ、とてもうれしいです。活動資金が必要となる重要な時期での受賞でしたので、明日に駒を進める糧としたいと思います。



# 子育て支援活動を支える ボランティアスタッフ、サポーターに聞く

子育て支援活動をしていく上で欠かせないのが、ボランティアスタッフやサポーターの存在。  
共助の社会を実現する上で、地域の方々との協力は欠かせません。  
ここでは、そんな陰になり日向になり活動を支えてくれている方々にお話を伺いました。

## 牧 悦郎さん

鹿児島ボランティアバンクの里爺・里婆事業に里爺として

この事業に参加したのは、代表の山口さんから声をかけていただいたのがきっかけです。もともと、自然のものを生かした遊びや昔の遊びを子どもと一緒に楽しむことが好きだったので、喜んで参加しました。里爺・里婆事業のいいところは、単発のイベントではなく定期的開催されているため、同じ子どもたちと続けて会うことができることです。子どもたちの成長の様子が見られますし、何よりも本当のおじいちゃんのように接してもらえることがうれしくて、続けて参加しています。

私も、自分の孫は鹿児島から離れたところに住んでいて、なかなか会うことができませんが、ここで会える子どもたちを自分の孫のように思っています。他の里爺・里婆も同じ気持ちで楽しんでいて、家族ぐるみで交流している方もいます。活動を手伝うというよりも、自分も楽しむというスタンスでみんなが参加しているようです。



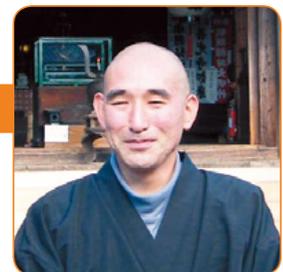
## 佐藤 瞬海さん

関善光寺住職

せき・まちづくりNPOぶうめらんの活動をサポート

3年前にこのお寺に赴任してきましたが、檀家のいないお寺なので日常的に人が集まることはありませんでした。お寺を皆さんの交流の場として活用したいと、NPOぶうめらんに相談したことがきっかけで、「てらっこ」が生まれました。

私にできるのは、活動の場を提供することと、月に1回お話をさせていただくことくらいですが、妻はお母さんたちと情報交換させていただいたり、幼稚園に通う子どももみんなと一緒に遊ばせてもらったりしています。何よりお寺が賑やかになったことで、私たちの方が恩恵を受けていると思っています。「てらっこ」が始まって変わったことといえば、小さい子が本堂前で手を合わせるようになったことで、この光景には心を打たれます。特定の宗教の信仰ということではなく、敬虔な気持ちになってご先祖を敬う習慣が身につくことは、子どもたちにとってもいいことではないでしょうか。



# 「女性研究者への支援」

## 上田 路子

シラキュース大学(アメリカ)  
講師

## 大塚 彩美

横浜国立大学大学院  
環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻

研究  
テーマ

### 自殺の要因及び 自殺対策の実証研究

内容

日本において自殺は大きな社会問題である。自殺の要因に関するこれまでの研究ではうつ病など医療的な要因が注目されがちであったが、失業など社会的要因にも注目した研究を行っている。国や地方自治体の自殺対策の効果を検証し、詳細なデータを用いた統計分析と、関係者へのヒアリングを行う。学術的な面だけでなく今後の自殺対策の施策にも役立つような研究を行いたいと考えている。



#### 受賞の言葉

2011年1月に日本で出産し、8ヶ月間一人で子育てをした後、物理学者である夫と一緒に住むためにアメリカに移住しました。日本に比べ育児環境が比較的整っていると考えられているアメリカですが、延長保育が存在しないなど、研究と子育ての両立に関して日本とは異なった難しさがあります。研究テーマが日本の自殺である以上、日本での資料集め等は必須であり、受賞によって日本での研究が継続できることをうれしく思っております。

研究  
テーマ

### 省エネ行動の意思決定構造の 分析および行動促進を目的とした アプローチに関する研究

内容

東日本大震災での原発事故により、計画停電や電力不足の問題が起こった。研究では、節電行動の意識調査や家庭での電力消費の計測（電力使用量の見える化）を行い、より省エネを進めていくにはどうすればよいかを考察している。この研究で、省エネや節電が常態的に求められる昨今の社会において、省エネを通じてライフスタイルや生活全般の価値観が転換できるよう、指標づくりに貢献したい。



#### 受賞の言葉

ハンディがある息子の子育てをしながら研究者へのキャリアシフトを志す私にとって、この度の助成決定には大きなエールをいただきました。同時に、身が引き締まる思いでいっぱいです。いつも支えてくれる家族と周囲の方々への感謝を胸に、研究課題である省エネ促進を通して、我が子をはじめとする社会的弱者はもちろんのこと、誰にとってもより優しく、より持続可能な社会への変容に少しでも貢献できるよう今後も研究に励みたいと思います。

# コンペル 綾乃

お茶の水女子大学  
リーダーシップ養成教育研究センター

研究  
テーマ

## 在外ドイツ人の歴史的経験 第二次世界大戦と在外ドイツ人

内容

ドイツ国外に暮らしていたドイツ人は、どのような出自、伝統文化、言語を共有し、どのような社会を築いていたのか、その社会においてナチズムはどのような反応と問題を引き起こしたのか、本研究はこうした問題をテーマ化している。日常生活史的な観点から「人々はその時代をどのように感じ、生きたのか」という具体的かつ等身大のイメージを描くことを目的とする。研究成果は、単著としての刊行を目指す。



### 受賞の言葉

このたびの受賞は、私のささやかな研究キャリアにおいて大変光栄なことです。主催者の方々に感謝申し上げます。人文・社会科学系の学問分野では、すぐに研究成果があらわれるものではないため、周囲の理解を得られず、苦しんでいる研究者も多くいます。しかし、このような研究が芽のまま摘み取られていくことは、本人にとってのみならず、この社会にとっても不幸なことです。このプロジェクトを通じ、研究の意義、興味関心を喚起できればと思います。

# 島田 恭子

東京大学大学院  
医学系研究科 精神保健学教室

研究  
テーマ

## 良好なコミュニケーションを通じた 人間関係向上プログラムの開発 ワーク・ライフ・バランスとウェル・ビーイング

内容

労働者にとって職場の人間関係は重要である。米では丁寧かつ相手を敬うコミュニケーションを通じ、円滑な人間関係構築を目指すプログラムが開発され、病院や一般企業で用いられている。本研究は当プログラムを日本に導入し、その応用可能性を検討することを目的とする。本研究が働きやすい職場づくりの一端となり、労働者、会社や社会全体にとって有益なものになることを目指している。



### 受賞の言葉

6ヶ月の長男を抱えた大学院入学から6年、常に乳幼児と共にある研究生活でした。全く性質の違う「子育て」と「研究」の両立に悩み続けましたが、たくさんの事を学ぶことができました。いつも励まし、全面的にサポートしてくれた夫と、状況を理解してくださり、暖かく力強いご指導をいただいた先生方に心から感謝しています。これからも信念を持って研究に取り組み、研究を通して世の中に貢献していけたらと思っています。

# 田川 麻央

お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

研究  
テーマ

## 第二言語での日本語学習者の読解過程 日本語学習者の読解過程における 要点関係図作成活動の役割

内容

現在、第二言語としての日本語読解教育の現場では、日本語学習者への適切な読解スキルの特定と具体的な指導が求められている。本研究では、日本語読解過程において文章の要点関係を表す図を作成する活動の効果について明らかにする。研究成果をもとに日本語での読解指導モデルを立て、教師や学習者が使用できる教材作成など日本語読解教育の現場に貢献したいと考えている。



### 受賞の言葉

このたびは助成の対象に選んでいただき、大変光栄です。これまで、いかに子どもとの時間を大切に、研究を前進させるか試行錯誤しながら奮闘して参りました。いつもサポートしてくれる夫をはじめ、ご指導くださる大学の先生方とゼミ仲間、調査に協力してくださる日本語学校の先生方と学生の皆様、並びに子どもがお世話になっている保育園の先生方により感謝申し上げます。受賞に恥じぬよう、今後とも研究と育児の両立に努力する所存です。

# 田村 知栄子

筑波大学大学院  
人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻

研究  
テーマ

## 未就学児をもつ母親の育児ストレス軽減のための ストレスマネジメントプログラムの構築と その効果に関する研究

内容

我が国において育児に不安を抱える母親が多く報告されている。育児不安は子どもへの悪影響や児童虐待につながる可能性もあり、育児不安の軽減は緊要な課題である。自分らしい生き方を見出す手がかりとして子育てを捉えなおし、母親の不安感やストレスが軽減されて、育児を楽しんでいけるよう、育児のストレスマネジメントにつながる研究を進めていきたい。



### 受賞の言葉

シングルマザーとして、研究、仕事、育児に日々奮闘しています。正直、経済的、精神的、身体的に困難で何度研究を断念しようと思ったことでしょうか。研究を続けてきた理由は、研究を通して一人でも多くのお母さんたちがいきいきと輝いてほしいこと。そして、私を信じて愛情いっぱい応援をしてくださった家族の笑顔のためです。助成対象として評価していただいたことに感謝します。今後の研究への大きなモチベーションとなりました。

# 津田 久美子

十文字学園女子大学  
非常勤講師

研究  
テーマ

## フランス現代作家における「母」の再考 -対象関係論を中心に-

内容

フロイトの弟子、クラインの「対象関係論」に依拠しながらフランス文学作品の読解を通して、一般的に理想化されている「母」とは別の「母」の意味を発見することが本研究の目的である。それは女性のアイデンティティ形成についての再検証でもあり、女性の存在が理想化された「母」か、あるいは「おぞましいもの」かに振り分けられてしまう図式に対して新たな視点を導入することになる。



### 受賞の言葉

このたびは助成対象に選んでいただきありがとうございます。これまでの子育て経験は得難い貴重なものであると同時に、常に自分の研究活動と葛藤する、暗く深いトンネルのような険しい道のりでもありました。今回の受賞を励みに、子どもの成長を見守りつつ、研究にも一層邁進していきたいと思えます。ご指導いただいた先生方、研究仲間たち、両親、そして最大の協力者である無二のパートナーに心から感謝の気持ちを伝えたいと思えます。

# 林 みちこ

島根大学  
教育学部 嘱託講師

研究  
テーマ

## 明治政府の外交政策と美術： 国宝出品にみる1910年日英博覧会の 再評価を中心として

内容

1910（明治43）年にロンドンで開催された「日英博覧会」における日本側の美術出品のうち、国宝33点が担った役割について考察する。国宝・尾形光琳《紅白梅図屏風》が海外へ持ち出されるなど、政府が大きなリスクを負ってまで国宝をイギリスに運んだことの意義やジャポニスムの文脈からその反響について調査を行い、この研究を通して日英美術交流史に新たな視座をもたらしたいと考えている。



### 受賞の言葉

助成対象に選んでいただきありがとうございます。私は、ひとり親家庭として生計のための仕事・子育て・研究の両立に苦勞してきました。研究費がないため追究したいテーマを掘り下げられない悩みとともに、社会的な孤立感もありましたが、今回の受賞は大きな励みとなりました。多様性を認める社会へという願いから、研究成果を上げることでシングルマザーの研究者に関するポジティブなイメージを発信していきたいと思えます。

# 原口 春海

神戸大学大学院  
システム情報学研究科 システム科学専攻

## 研究 テーマ

### セル生産システムにおける 人的要因を考慮した作業計画と 従業員教育に関する研究

#### 内容

製造業では、多品種変量生産に対応するためのセル生産システムが注目されている。セル生産システムは、作業員の技能やモチベーションが生産性に大きく影響していると言われていたため、作業員の技能や作業意識を適切に判断する新しい指針を作成する。また、その指針を用いて最適な人員配置・スケジューリングの手法および、作業員の訓練計画を設計する。



#### 受賞の言葉

ご採択頂きまことにありがとうございます。応募にあたり、私の内面で葛藤する場面がありました。それは、幼い子を持つ女性研究者にとって『子どもが研究の足かせになっている』と誤解されかねないのではないか？ということです。実際は全くの逆で、私にとって子どもは研究活動の原動力であり救いです。本助成の助けを借り、子どもと成長しながら未来に繋がる研究成果を残すことによってそれを証明したいと思います。

# 若佐 美奈子

京都大学大学院  
教育学研究科 臨床教育学専攻

## 研究 テーマ

### 心理臨床における無意識的空想と それへのセラピストの影響に関する研究 -女性セラピストの妊娠・出産に注目して-

#### 内容

精神分析的心理療法においては、治療と患者の無意識的な関わり合いが重要であり、治療者が妊娠・出産する場合、患者の無意識的空想を刺激することは避けられない。にもかかわらず過去の研究は少なく、治療者の妊娠・出産について否定的な影響を指摘するにとどまる。本研究では、海外の先行研究を包括的にレビューし、自身の治療経験を生かして肯定的な影響も含めた詳細な検討を行う。



#### 受賞の言葉

当初は、臨床・研究と育児の両立において、一方が他方の犠牲にならないようにと力が入り、苦勞しましたが、両者に真剣に向き合えば、お互いがお互いの糧となることに気がきました。女性研究者であるという現実的な限界を見極めながらも、納得のいくまで取り組む姿勢を持ち続けられるのは、夫の励ましと協力、子どもたちや周囲の皆様の理解のおかげです。今回の受賞に感謝し、社会に貢献する研究ができるよう、より一層励みたいと思います。

# 第3回(2009年度)受賞者最終報告

第3回受賞者の方から、助成期間を終えて、  
研究環境や子育て環境がどのように変わったのかをご報告いただきました。

## 研究継続で得た成果

### 糊澤 令子

洗足こども短期大学  
幼児教育保育科 専任講師



研究のための時間と資金、娘の保育が必要でしたが、2年間ご支援していただいたことで精神面・資金面に大変恵まれ、論文執筆や学会発表などの研究活動を行うことができました。出産後再入学した博士後期課程で、念願の心理学博士号を取得することができました。

### 田中 淑江

共立女子大学  
准教授



2010年度に博士号取得後、2012年4月より長年非常勤講師を勤めておりました母校の共立女子大学の教員に就任することができました。本助成によって安心して研究できる環境が整い、2年間の研究成果を出せたことが今回の就職につながったと思っております。

## 育児と研究の両立を取り巻く環境について

### 岡村 佳代

お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科



この2年間は、娘の小学校入学や引越など変化の多い時期でしたが、助成金のおかげで無理に仕事を増やすことなく、娘と時間を共有できたことがとてもよかったです。また、研究と育児の両立にこれまで以上に周囲の方々からの協力が得られたように思います。

### 小林 奈緒子

島根大学  
学術国際部図書情報課  
第2回受賞者、出産により助成期間を1年延期



助成を受けたことで、保育園の土曜保育で預かってもらえるようになり、夫が育児に積極的に関わってくれるようになりました。周囲の理解が広がったことが、研究を続ける上で大きな財産となり、出産による研究中断後も子育てしつつ研究を再開しています。

### 山口 睦

東北大学  
東北アジア研究センター



助成という社会的な評価を得たことで、夫や両親から研究が理解され、今まで以上に育児の協力を得やすくなりました。息子にも「お母さんはお仕事だから」と自信をもって言えるようになり、精神的にも経済的にも後押しされ、2年間充実した研究活動ができました。

## 研究継続の中での生活環境の変化について .....

## 齊藤 愛

筑波大学大学院  
人文社会科学研究科

助成決定時には小さかった子供たちも、来年には中学生と小学生になります。少しずつ研究のための時間が取りやすくなってきました。本助成によって、気兼ねなく資料を購入したり、子供を伴って調査旅行に行くなど、不安なく研究に取り組むことができました。

## 春花

東北大学大学院  
国際文化研究科

助成金のおかげでモンゴルでのフィールドワークに何の迷いもなく行けました。現地調査での成果は、研究を進める上で後押しになりました。また、東日本大震災で被災した際も破損したパソコンなどを買いそろえることができ、研究を継続することができました。

## 梁 熙貞

関西学院大学大学院  
言語コミュニケーション文化研究科

本助成を得て金銭的な余裕が時間的な余裕につながり、心理的な余裕をもって研究に取り組むことができ、育児と研究の両立に自信を持つことができました。応援してくれる制度や周囲の人々の協力があれば、女性研究者も研究に励むことができると思います。

## 渡辺 明美

早稲田大学大学院  
アジア太平洋研究科

この助成に応募した時は、娘の心臓の手術がありましたが、本助成が経済的・精神的な支えとなって乗り切ることができました。その後、2011年7月には第二子を出産し、出産後も研究も継続しながら、家族全員が健康に過ごしています。

## 伊東あゆみ様について

伊東様は、病氣と闘いながら意欲的に研究に取り組みまれておりましたが、まことに残念ながら2011年5月に永眠されました。伊東様のご冥福を心よりお祈りいたします。伊東様は、当プロジェクトの助成について「子育てしながら研究を続ける自分の背を押してくれる人がいた。勇気もらった」とおっしゃられていたそうです。闘病生活の中で最後の論文を完成させ、2011年6月にお茶の水大学日本語文化学会より発刊されたことを最終報告とさせていただきます。

【伊東あゆみ様夫 伊東俊英様より】助成というご支援を自信や希望に変え、最後までかっこいい母親でありたいと研究を続けておりました。女性研究者への支援というだけでなく、闘病への希望としていたようです。同じような困難な環境にある女性研究者皆様のご活躍を願ってやみません。

# 第5回受賞者ご紹介

第5回「未来を築く子育てプロジェクト」の表彰式および懇親会を、  
2012年2月13日(月)、ホテルニューオータニにおいて開催いたしました。



受賞者と実行委員の記念写真



お子さまも一緒に参加



会場の隣に託児ルームを開設



懇親会



## 「子育て支援活動」第5回受賞者の近況

### 特定非営利活動法人 パパジャングル 福井県 代表者: 荒巻 仁

**受賞で変わった環境** 受賞を機に全国から講演の依頼をいただいています。絵本ライブもひっぱりだこで、自信を持って活動に取り組んでいます。冒険遊び場の中にある学童保育は、入所希望者が2倍になり、子どもたちも楽しく過ごしています。施設の増設の準備もしています。助成金は、被災地の子どもたちを招待したサマーキャンプなどにも使わせていただきました。



全国から講演依頼があり、  
学童保育の入所希望者が  
2倍になりました



## 「女性研究者への支援」第5回受賞者の近況

### 小沼 和子 一橋大学大学院 言語社会研究科

**研究テーマ** ドイツ中近世民衆本研究

**受賞で変わった環境** 受賞により、経済的な問題から解放され、ドイツでの一ヶ月間の滞在調査が実施できました。現在は、持ち帰った資料の分析をしながら論文の執筆を進めています。来年2月にも再度ドイツで調査を行い、その成果をもとに今年度中に学位論文執筆計画書（プロポーザル）を提出し、来年度末には学位申請論文を提出する予定です。



海外での  
現地調査に行くことが  
できました

### 藤田 久美子

**研究テーマ** 高知県嶺北地域におけるコミュニティを中心とした土砂災害対策

**受賞で変わった環境** 2012年3月、京都大学大学院において博士号を取得できました。助成金をいただけたため、フルタイムではなく週3日NPO法人で働くことにして、勤務日以外は博士課程における研究を続けながら、子どもと過ごす時間も確保することができています。また、受賞により家族も私が研究を続けることを前向きにとらえてくれるようになりました。



博士号を  
取得できました